

【課題番号】 S-13

【研究課題名】 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発

研究の全体概要

生物多様性に関する愛知目標では海洋保護区（MPA）の設置が求められているのに対して、それに関する環境行政面からの対応の遅れがある。

本研究では、沿岸海域とその後背地である陸域の自然・人間活動を総合的にとらえ、物質循環・エコトーンのあるべき姿に対して、現状を如何に改変することが必要か、具体的な提案を行い、わが国における沿岸海域環境管理手法を提案する。

陸域に近い沿岸海域における海域環境管理手法を構築するに当たって、(1)閉鎖性海域の代表としての瀬戸内海、(2)開放性内湾である志津川湾などが連なる三陸沿岸海域、(3)国際的な閉鎖性海域としての日本海の沿岸部、をモデル海域として、沿岸海域環境管理にむけた方針を確立する。さらに、(4)社会・人文科学的な考察も加えて、平成27年度からは(5)沿岸海域管理のための統合数値モデル構築を開始する。

これらの研究により、具体的な沿岸海域環境管理に対する手法の提案を行う。

持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発

テーマ1

閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発

1. 栄養塩濃度管理法開発
2. 干潟・藻場の栄養物質循環・生物再生産に果たす機能の解明

テーマ2

開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法の開発

1. 遷移する沿岸環境監視とそれを応用した沿岸海域管理法開発
2. 森-川-海の栄養物質輸送機構の解明
3. 森-海の物質輸送に果たす有機物の役割解明

テーマ3

陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発

1. 国際的閉鎖性海域の管理法提案
2. 日本海環境変動予測モデルの構築
3. 日本海高次生態系モデルの構築

テーマ4

沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示

1. 生態系サービスの経済評価
2. 沿岸海域三段階管理法提案
3. 人文科学的考察に基づく市民と沿岸海域を結ぶ物語の発見・構築・継承
4. 対馬・五島の海洋保護区における漁業活動調整



テーマ5

沿岸海域管理のための統合数値モデル構築

【総括】

- ・ 激動する世界の中での沿岸海域管理哲学構築
- ・ 望ましい沿岸海域の定量的環境指標を実現するために必要な施策
- ・ 政策支援ツールとしての自然・社会・人文科学統合モデル

統合的沿岸海域モデル

見える化

環境行政施策

協議会
(三段階管理体制)

きれいで、豊かで、賑わいのある持続可能な沿岸海域実現